

ブドウ栽培の大敵 晩腐病の発生を抑える新たな防除対策

晩腐病に対する薬剤の体系防除例

処理時期		薬剤名
4月上旬	発芽前	パスポート顆粒水和剤 250倍又はベンレート水和剤 200倍
5月下旬	開花前	ポリベリン水和剤 1,000倍
6月上旬	小豆大	ペンコゼブ水和剤 1,000倍
6月中旬	大豆大	ミギワ20フロアブル 2,000倍
6月下旬	袋掛け前	オンリーワンフロアブル 2,000倍



晩腐病による
被害

開発のねらい

晩腐病は、簡易被覆（棚に簡単なビニルトンネルをかける）栽培ブドウでの出荷量低下の大きな要因となります。近年、晩腐病に対する有効薬剤の農薬登録内容が変わってきており、防除対策の見直しが必要となりました。そこで、新しい薬剤を選抜し、晩腐病の発生を抑えるための新たな防除対策を開発しました。

新技術の概要

- 冬越しした病原菌を畑に蔓延させないためには、「パスポート顆粒水和剤」又は「ベンレート水和剤」を用いた発芽前散布が効果的であることがわかりました。
- 果実での被害を防ぐには、6月中旬（ブドウの果粒の大きさが大豆大の頃）に「ミギワ20フロアブル」を散布すると効果的であり、汚れや果粉溶脱等品質への影響が少ないことがわかりました。

活用場面

本技術は岡山県内のブドウの簡易被覆栽培に適用でき、晩腐病に対して安定した防除効果が得られることで、ブドウの出荷量の増加と農家所得の向上が期待できます。なお、「ベンレート水和剤」については、県内の一部で薬剤が効きにくい菌（耐性菌）が発生しています。作用機構が同じ薬剤を繰り返し使用すると、耐性菌が発生しやすくなりますので、使用する薬剤の作用機構分類（FRACコード）にご留意ください。